

平成21年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(葉いもち) 紋枯病	並 並	並 並
水稲共通	ヒメトビウンカ(注意報第2号継続) 縞葉枯病(注意報第2号継続) ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	やや多 並 やや少 やや少 やや少 並 並	やや多 やや多 やや少 やや少 並 並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G.cingulata</i>) ハダニ類	やや多 並 やや多	やや多 並 やや多
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 やや少 並 並	並 並 やや少 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	やや少 並 並	やや少 並 並
なし	黒星病 ナシヒメシンクイ	並 並	並 並
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 並 並	並 並 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 やや多 並 並 やや多 並 並	やや少 やや多 並 並 やや多 並 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.5%、発病株率0.0%)。

- イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が南島原市口之津町で6月6日に認められた（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照）。

2. 紋枯病

- (1) 予報内容

発生程度	並
------	---
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生を認めなかった（発生圃場率0.2%、発病株率0.0%）。
 - イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成21年6月5日付**病害虫発生予察注意報第2号**を継続。

その後の発生状況は以下のとおりである。

- (1) 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）、発生圃場率は9.8%（19.5%）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（発生圃場率0.2%、発病株率0.0%）。
- (2) 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.2頭（0.0頭）であった。縞葉枯病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

- (1) 予報内容

発生程度	ツマグロヨコバイ	やや少
	萎縮病	やや少
- (2) 予報の根拠
 - ア 5月中下旬のイネ科雑草地（2地点）から採集したツマグロヨコバイ（第1世代）についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%（0.0%）であった。
 - イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.1頭（0.1頭）、発生圃場率は12.2%（35.2%）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。
 - ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.5頭（1.8頭）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

- (1) 予報内容

発生程度	セジロウンカ	並
	トビイロウンカ	並
- (2) 予報の根拠
 - ア セジロウンカは、5月17日にネットトラップ（諫早市）で誘殺を初確認した。トビイロウンカは、6月15日現在でネットトラップ及び予察灯での誘殺を認めていない。
 - イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）で、成虫が主体であった。発生圃場率は14.6%（31.2%）であった。トビイロウンカの発生は認めなかった（発生を認めない）。
 - ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、早期水稲、無防除）調査の結果、セジロウン

カの株当たり虫数は0.5頭(0.3頭)で、若齢幼虫主体であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。

- (3) 防除上注意すべき事項
今後の飛来状況に注意する。

4. コブノメイガ

- (1) 予報内容

発生程度 並

- (2) 予報の根拠

ア 6月12日にフェロモントラップ(諫早市)で誘殺を初確認した。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稻において食害株及び幼虫の発生は認めなかった(発生を認めない)。10㎡当たりの成虫の発生も認めなかった(成虫数0.0頭)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稻、無防除)調査の結果、食害株及び幼虫の発生は認めなかった(食害株率0.3%)。成虫の10㎡当たり虫数は0.1頭(0.0頭)であった。

- (3) 防除上注意すべき事項
今後の飛来状況に注意する。

いちご

1. うどんこ病

- (1) 予報内容

発生程度 やや多

- (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は13.0%(13.4%)、発生圃場率は72.7%(59.1%)であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は、薬液が葉裏、葉柄に十分かかるように散布する。

イ 除去した茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 薬剤耐性菌発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

- (1) 予報内容

発生程度 並

- (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率1.1%、発病株率0.1%)。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実に行う。

イ 高設育苗や全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に強風雨、長雨などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後に重点的に行う。

3. ハダニ類

- (1) 予報内容

発生程度 やや多

- (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は3.2%(1.8%)、発生圃

場率は30.3% (19.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は散布むらないように、葉裏まで付着するよう十分量をていねいに散布する。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

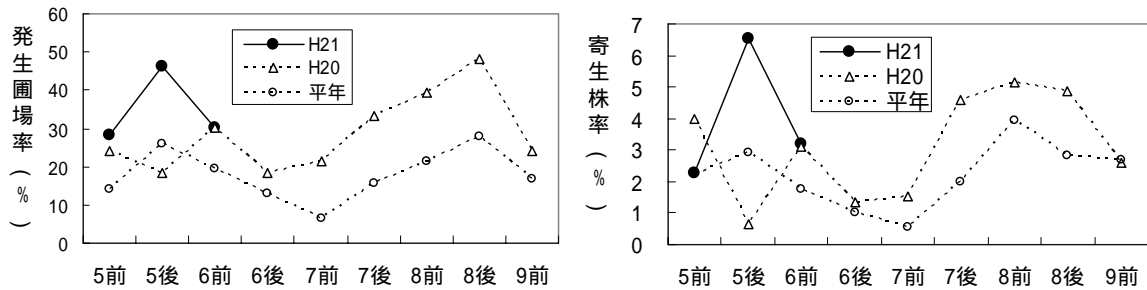


図 いちご育苗床 ハダニ類の発生推移(巡回調査)

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は29.3頭(前年49.5頭、前々年23.2頭)、発生圃場率は77.8%であった(前年88.9%、前々年77.8%)。

(3) 防除上注意すべき事項

アザミウマ類が増加しやすい時期であるので、発生に注意し、早期防除に努める。

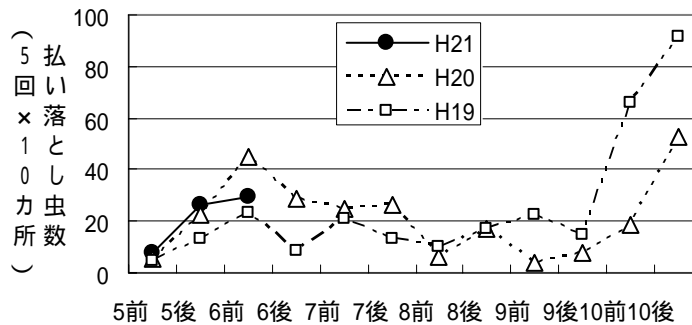


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は10.3%(8.0%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.4%)。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は4.1%(12.0%)、発生圃場率は41.0%(53.5%)であった。

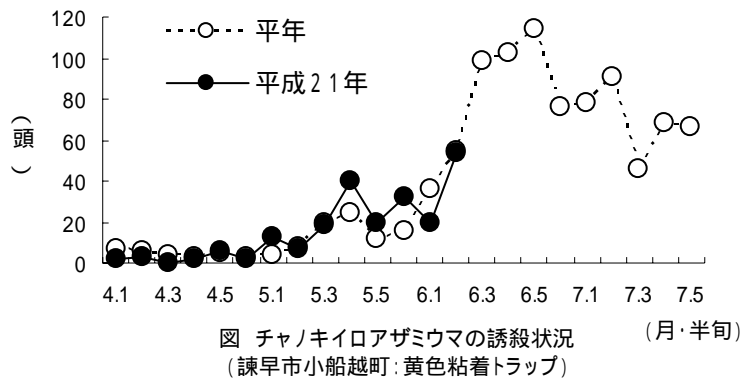
4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市小船越町)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い圃場では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

地点	長崎	佐世保	島原	松浦	大瀬戸	口之津
第3世代	7 / 4	7 / 6	7 / 1	7 / 11	7 / 13	7 / 2
第4世代	7 / 25	7 / 27	7 / 19	7 / 30	8 / 4	7 / 24
標高	27m	4m	9m	5m	43m	10m

注1:各地点のアメダスデータにより平成21年6月15日時点で算出し、6月16日以降の気温データは平年値(島原及び松浦は2008年)を使用した。

注2:山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。

5. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

各地区の防除適期(初発日から40日後)は下表のとおりと予測され、前年に比べやや早いため、防除適期を過ぎている地域では早急に薬剤散布を行う。

表 ヤノネカイガラムシの防除適期(有機リン剤)

地区名	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸
平成21年	6/13	6/15	6/13	6/12	6/14	6/14	6/18	6/15
(平成20年)	6/16	6/19	6/17	6/16	6/18	6/17	6/22	6/19
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58

注1: 方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を利用した。

注2: 初発日は気象庁アメダスの気温データを用いて算出した。

注3: 同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.8%(1.7%)、発生圃場率は40.0%(42.5%)であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は14.3%(12.0%)、発生圃場率は90.0%(91.3%)であった。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市小船越町)での誘殺量は平年並で推移している(図)。

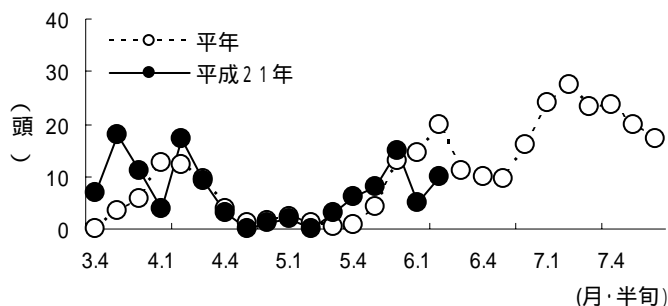


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況 (諫早市小船越町:フェロモントラップ)

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.5%(0.5%)、発生圃場率は41.7%(26.6%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市小船越町)での誘殺量は平年並で推移している。

ぶどう

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.5%(0.0%)、発生圃場率は8.3%(2.1%)であった。

2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.2%(0.3%)、発生圃場率は8.3%(13.5%)であった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害果房率は1.8%(0.1%)、発生圃場率は41.7%(4.2%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している。

(3) 防除上注意すべき事項

袋掛け前の防除を徹底する。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 各地区のフェロモントラップでの誘殺量は並~やや少なく推移している。

イ 病害虫防除員の報告によると、果樹園への飛来は5月中~下旬に見られたが、その後は少なく推移している。

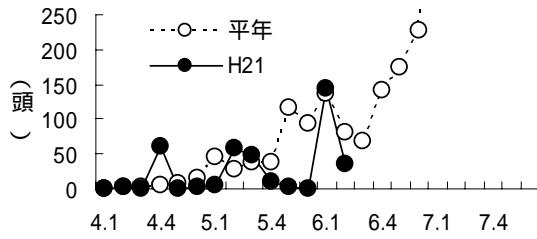


図 チャルネツヤアオカムシの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:黄色コネコル)

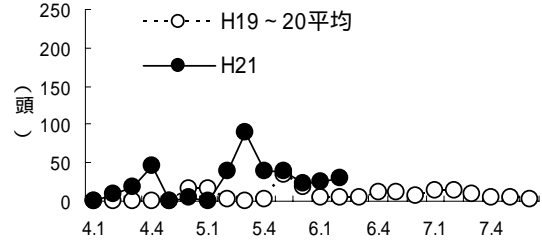


図 チャルネツヤアオカムシの誘殺状況(月・半旬)
(西彼:黄色コネコル)

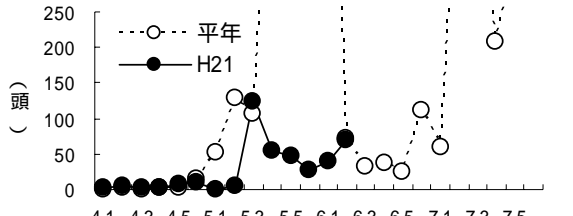


図 チャルネツヤアオカムシ誘殺状況 (有家:黄色コネコル)
平年は平成17~20年の平均

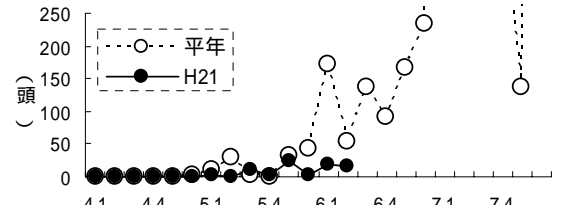


図 チャルネツヤアオカムシ誘殺状況 (多良見:黄色コネコル)
平年は平成17~20年の平均

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発病葉率は0.4%(1.4%)、発生圃場率20.0%(21.7%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は86.6頭(12.4頭)、発生圃場率は85.0%(77.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下を防ぐため、同一薬剤の連用は避けローテーション防除に努める。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.3枚(0.1枚)、発生圃場率は20.0%(7.7%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年よりやや少なく推移している(図)。

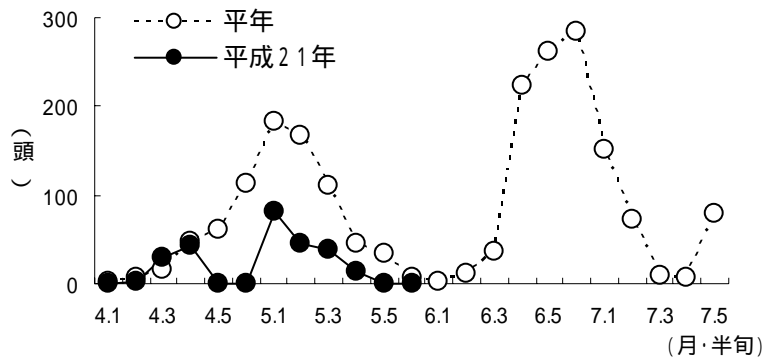


図 チャノカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.1枚(0.1枚)、発生圃場率は5.0%(6.4%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

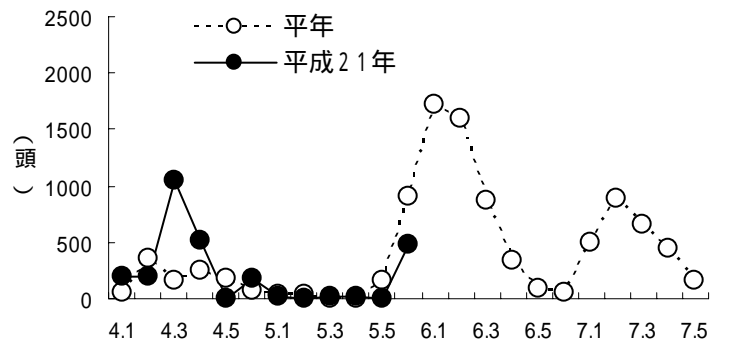


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ) (月・半旬)

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は10.4%(1.5%)、発生圃場率は80.0%(15.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも十分薬剤がかかるよう散布する。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は2.9頭(1.7頭)、発生圃場率は60.0%(39.7%)であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は3.6%(7.6%)、発生圃場率は35.0%(35.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を中心に防除する。なお、独自にふ化盛期日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるふ化盛期予測日(第2世代)

地区名	標高	平成21年	平成20年	平成19年
東彼杵町太の原	360m	7/25	7/25	7/26
五島市上大津	77m	7/13	7/16	7/11

注1: ふ化盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法(農林技術開発センター茶業研究室)」により算出した。

注2: 使用する気温データは、茶業研究室(東彼杵町)の気温データとアメダスデータ(五島市)を利用した。なお、第1世代のふ化盛期を、東彼杵町太の原: 5月20日、五島市上大津: 5月7日として算出した。

注3: 同一地区内でも標高や土地条件でふ化盛期日が異なるので注意する。

【参考】

気象

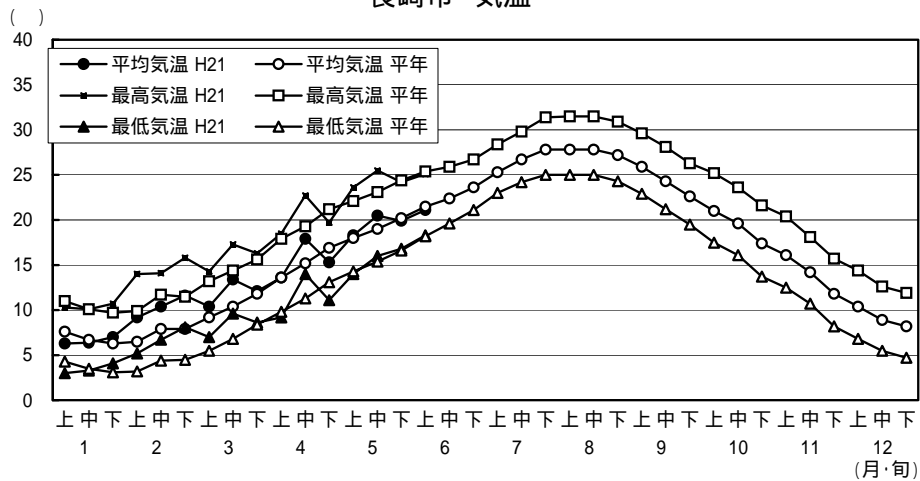
(平成21年6月12日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	50	20
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

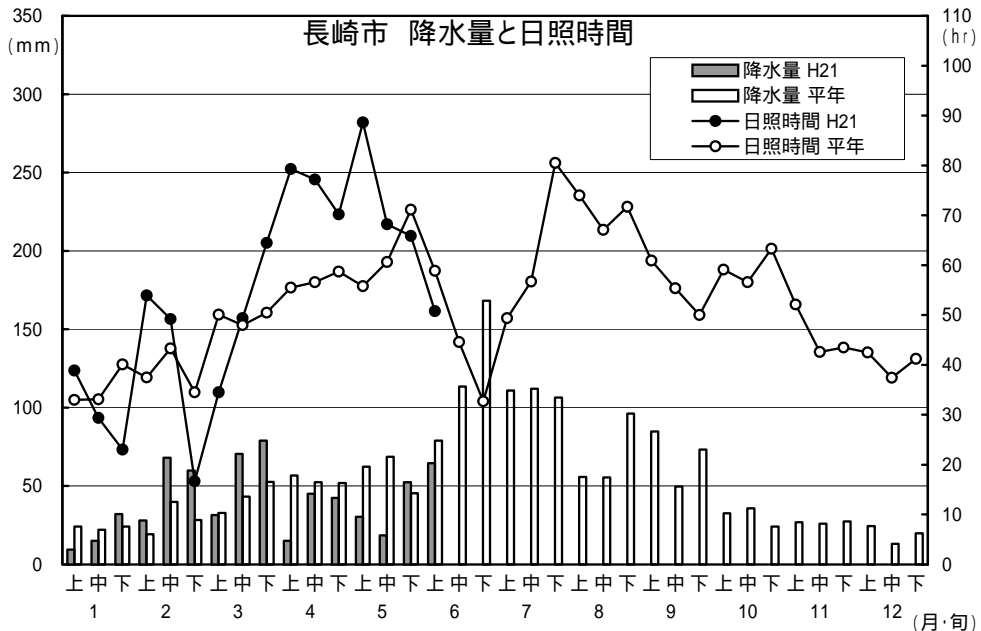
予報対象地域：九州北部地域

平成21年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



6月15日から8月14日までの2ヶ月間を「農薬危害防止月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027